

# この時が分かれ道！

学校に行くことは差別を知ること。  
なぜこれほど怒れたのか？

29歳で小学校に通った**八木下浩一**・一問一答 &  
**養護学校はあかんねん！** 上映

2015年1月24日(土)

15時半受付開始 ~17時半

16時~ 八木下浩一のはなし

養護学校はあかんねん

川口市芝公民館ホール

蕨駅東口徒歩17分、川口芝小学校向

〒333-0866川口市大字芝3905番地

048-265-6410(代表)

時間のある方は 17時半からの交流会にご参加ください

(お茶とお菓子と一言感想ですごしませんか?)

## 養護学校はあかんねん!

'79・1・26~31

文部省糾弾連続闘争より

「養護学校はあかんねん！」  
(長征社/1979年/50分/16mm)

企画制作：市山隆次  
構成：大石十三夫、山部伸貴  
編集・インタビュー：山部伸貴  
撮影：小田博、小林義正  
録音：若月治  
整音：久保田幸雄  
ネガ編集：加納宗子  
現場制作：大石十三夫  
現場進行：清水三貴、大月忠  
題字：須田雅之  
協力：倉岡明子、労働映画社  
青林舎、(株)長征社  
全国障害者解放運動連絡会議

Off Theater Film Festival '79  
一般公募部門入選作品  
※16ミリフィルム映画をDVD化しました



精敏夫 全障連全国事務局長



意見を聞く集い  
1月27日 蕨の門・日消会館



差別差別教育体制を  
廃止せよ

### 日本の共生共学(インクルーシブ教育)運動の 原点はここにある!

「養護学校はあかんねん!」は、1979年の養護学校義務化の年の1月、文科省前に義務化を阻止しようと集まった障害者当事者を中心とする人たちの6日間の記録映画です。35年前、彼らはすでに「差別の社会的障壁」と「インクルーシブ教育の必要性」を訴えています。35年前のこの運動があったからこそ今があるのだと、熱い思いを感じます。しかし、35年たっても変わらない現実も突き付けられます。さらに、今の私たちにこれだけのエネルギーがあるのだろうかとも思います。だからこそ、一人でも多くの方にこの映画を視聴してもらい、新たなエネルギーにしていきたいのです。1本しか残っていない16ミリフィルムを神戸映画資料館のご協力でDVD化することができ、当時の情景を彷彿する素晴らしいできばえとなりました。かつて闘った皆さんと思いを共有し『障害者権利条約』を活かせる社会への原動力となれば幸いです。

障害者権利条約批准を契機に再び「養護学校はあかんねん!」を視聴する会

参加費：500円

主催：

埼玉障害者自立生活協会

埼玉障害者市民ネットワーク

連絡先：048-737-1489



この人が  
若き日の八木下  
浩一さんです

# 養護学校あかんねん・・・より

・・・障害者の味方をする健全者がいなくなれば、すごく・・・社会の秩序を守っていくのが楽しさーそんな形で障害者を闇から闇へとさーいわゆる地域社会に一緒にの町内とか、一緒にの区内に住んでる障害者を排除してしまうー健全者と障害者が仲間になるのが怖いからー。仲間になっちゃうと怖いよー。仲間になって、その勢力が大きくなったら、転覆しちゃうもん、力関係が。

中略

・・・大義名分的にだよ、みんな・・・重い障害を持っている子供たちによ、その能力とか障害にあった教育をしていくという、美しいー美名のもとによ、健全者社会から隔離し、排除していく。そういうようなーその目的が義務

化に込められている。だから、普通学校に入ることー入ったからって、楽しいことは無いと思うよ。いじめられるしさ、必然的に今の学校教育についていけないからさ、おちこぼれるかもしれないけど、そんなの承知だ。

むずかしい勉強をさ、頭こねくり回して、悩みながらさー『これ、わかんねえ、教えてくれ』とかさー、『こんどの日曜日に、どっか行こう』とか、そんなことを言い合っただよ、断られてもさ、『じゃあ次の日曜日は』とかー、そんなこと言いあって、ちっちゃなことだからさ、人間関係作ってさ。もっと自分らがストレートに、自分らが素直にさ、云いたいことを伝えた方がいい。ーすごく自然な人間関係ができるんじゃない?」(須田雅之さん 当時23歳 東京都)

埼玉県川口市芝4丁目周辺の地図



## 蕨駅東口、徒歩17分 駅前

をまっすぐ、猫橋の交差点を左折。

## 街に生きる

私の生い立ちを振り返ると、ひとつには、地域の子供達との関係があって、歩けるようになって、また、地域の若者との関係で、人間生活が豊かになったことは事実です。男と女の関係の中で、やはり何が、問題点なのか、何をこれから私が、やっていけなくちゃいけないのかということを知って、また、学んできたわけです。そのことを振り返りながら、第二期時代がやってきました。つまり、ということかということ、私が自ら「自己変革」をせまられたのです。

そうです。学校へ行きたくなったのです。

(街に生きる ある脳性まひ者の半生 八木下浩一より)

会場になる川口芝公民館は、八木下さんが29歳で通った川口市立芝小学校の真向かいにあたります。そして、会場から徒歩2分のところにある有料老人ホームで八木下さんは暮らしています。八木下さんは川口の町で生きています。当協会は自立と共生のぶつかりあいが娑婆で生きることだと考え活動しています。一般社団法人となり再スタートを始める今、「まちに生きる」ことは何か？を一緒に考えてみませんか？